

平成20年度第2回

## 八王子市市史編さん審議会

日 時：平成20年9月22日(月)

午後5時から

場 所：八王子市役所本庁舎 601会議室

### 【次 第】

- 1 . 開会
- 2 . 基本構想及び編集方針について
- 3 . その他
- 4 . 閉会

平成 20 年度 第 2 回  
八王子市市史編さん審議会  
平成 20 年 9 月 22 日

( 配付資料一覧 )

- 1 . 第 1 回八王子市市史編さん審議会会議録
- 2 . 審議関係資料
  - 資料 1 八王子の歴史、文化財等に関する市民の要望
  - 資料 2 市史編さん基本構想検討資料
    - 資料 2 - 1 他自治体史基本構想等の内容一覧
    - 資料 2 - 2 市史編さん基本構想内容案

参考資料

- 八王子ゆめおりプラン ( 概要版 )
- わたしたちのまち ( 市立小学校社会科副読本 )
- 伸びゆく八王子 ( 市立中学校社会科副読本 )

# 八王子の歴史、文化財等に関する 市民の要望

- 1 . タウンミーティング「市長と語る」における市民の要望と回答（抜粋）
- 2 . 八王子市文化振興計画における事前市民アンケート（抜粋）
- 3 . 『市政世論調査報告書（平成 15 年）』 「文化振興の推進」(抜粋)
- 4 . 平成 17 年度市政モニター 第 2 回アンケート結果

# 1. タウンミーティング「市長と語る」における市民の要望と回答（抜粋）

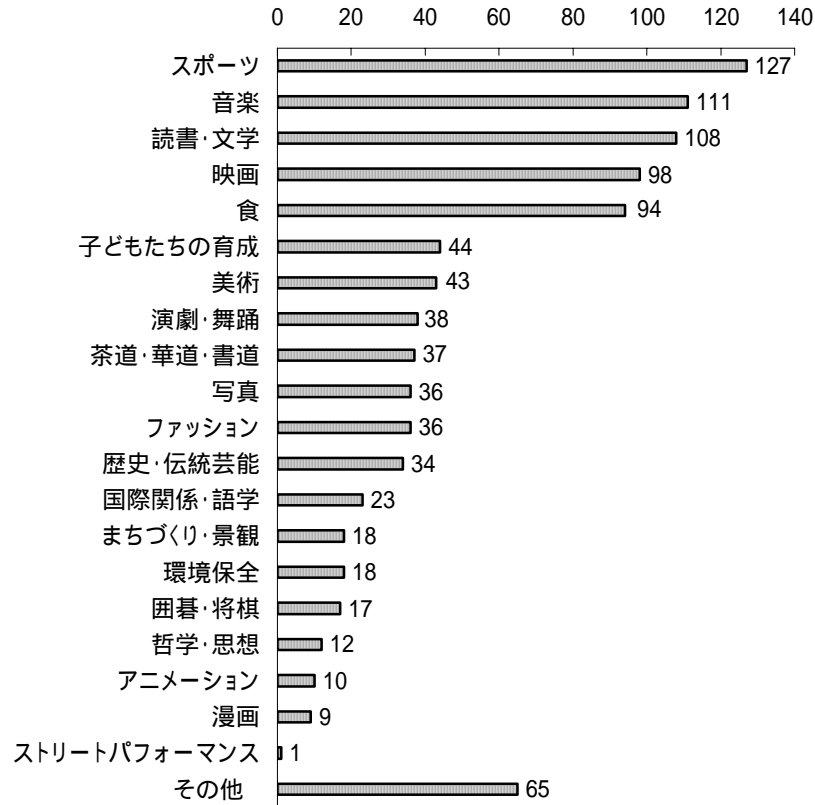
要望項目	質問内容	市長回答	開催日
八王子の歴史を学校で教えること	八王子市はすごく歴史が古い。千人同心のことなど、八王子の歴史を学校の先生方に教えていただくと、子どもたちがいいまちだと感じると思う。	八王子には、すぐれた歴史遺産や地域の文化がある。それらを知ることは、ふるさと意識を持っていただくために非常に重要なことだと思っている。 八王子の歴史を知っている教員ばかりではないので、サタデースクール等を活用していただき、地域の先輩の皆さんから教えてもらい、地域の教育力、地域の人材を活かしていただきたい。	6月5日平成16年
郷土資料館の建替えについて	他市の郷土資料博物館を見学した。比べてみると、八王子市の郷土資料館は、建築年数が大分経っており、場所も狭いということを痛感した。他市に負けない歴史を持つ八王子市であるので、郷土資料館を充実させて改築するとか、そういう文化都市八王子を目指していただきたい。	新しくできた施設はみんな良くできている。八王子の郷土資料館も、今度造るときには、多摩でも有数なものを作りたい。 ただ、優先順位があり、いっぺんにできない。一つひとつ着実に事業や施設整備をしていかなければいけないというのもあるので、その点はぜひご理解をいただきたい。	6月24日平成18年
郷土資料館について	郷土資料館は昭和39年に建設され、手狭、老朽化が激しい。改修するとの話を聞いているが、実現されていない。 古文書の調査をしているが、非常にたくさんの資料がある。どこか保管する場所を確保してほしい。 そこで、小・中学校の空き教室の利用を提案したい。	郷土資料館はまったく十分でないと思っている。 八王子市は、歴史の分野ではいろいろな面で豊富である。関連する資料はきわめて貴重であると思うし、これを後世にきちんと整理して残していくということは大事なことであると思っているので、郷土資料館もいずれ整備する。 空き教室は、現在防災倉庫や学童保育で使用している。空き教室は、子どもの安全の問題もあり、条件が整わないのではないかと。子どもが少なくなって統廃合したところを活用して、現在資料を臨時的に保存している。これを系列的にきちんとした資料として残すように、保存ならびに展示ができるようにと考えているので、その節はご協力いただきたい。	6月9日平成19年
郷土資料館について	郷土資料館を、市制100周年記念事業として作り変えていただきたい。八王子の歴史を顧みれば、数々のドラマチックな流れがある。市民の方に、よりバーチャルに紹介をしていくのは市の努めだと思う。	古くなったし、展示をできるような状態ではない。100周年を目指して、郷土資料館をなんとか建て替えなければならないと考えている。八王子の貴重な歴史の資料を後世に伝えていくのは、今を生きる我々の義務のひとつと思っている。新しい市民も八王子の歴史に触れると、ふるさと意識、市民意識が高まると思うし、大事なことだと思って取り組ませていただく。	6月16日平成19年

<p>文化財の保護・保存について</p>	<p>文化財の保護・保存と活用で地域おこしを考えている。例えば、旧街道に北条時代の現状そのものが残っているのを調査をし、説明板をつけるとかして、道の駅につなげる。加住地区の史跡を掘り起こして文化財に指定し、それを地図におとして、現状と昔の北条が治めていた時代と重ね合わせたものになれば良いのではないか。さくら祭のときには歩行者天国にして、市長に鎧兜を着て馬に乗ってもらって、北条氏照に扮してもらい、時代まつりができたらいいなと考えている。</p>	<p>大変夢のある話で、私も大賛成である。歴史遺産があるというのは、まちの誇りである。これを掘り起こして、大切に後世に残していくことは大事なことを思っている。地元の皆さんがご提案したものを、行政が後押しをするということではないかと思う。こんなに素晴らしい美術館がそろう地域はない。これは大事なことだと思う。氏照になるというのは結局滅ぼされるので、複雑な思いである。</p>	<p>6月23日平成19年</p>
----------------------	---	--	-------------------

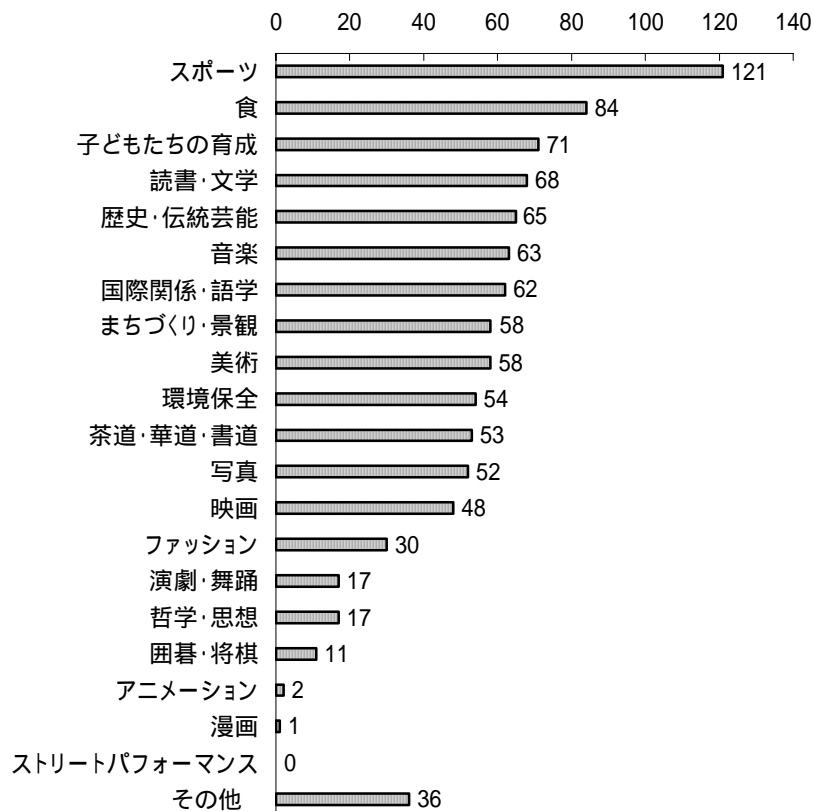
## 2. 八王子市文化振興計画における事前市民アンケート(抜粋)

(平成16年12月実施)

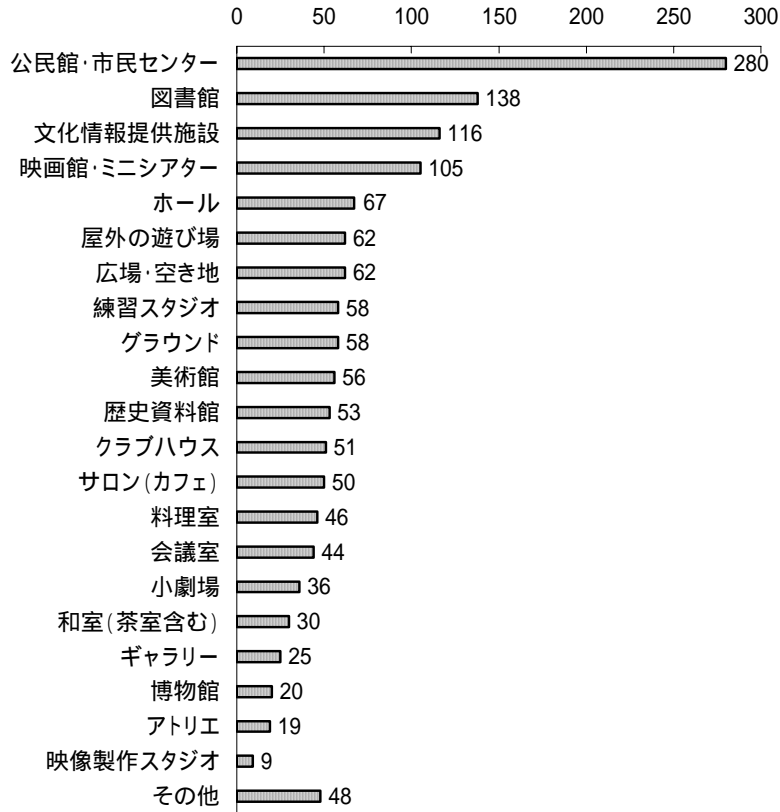
問5.あなたが、今楽しんでいる文化活動は何ですか？



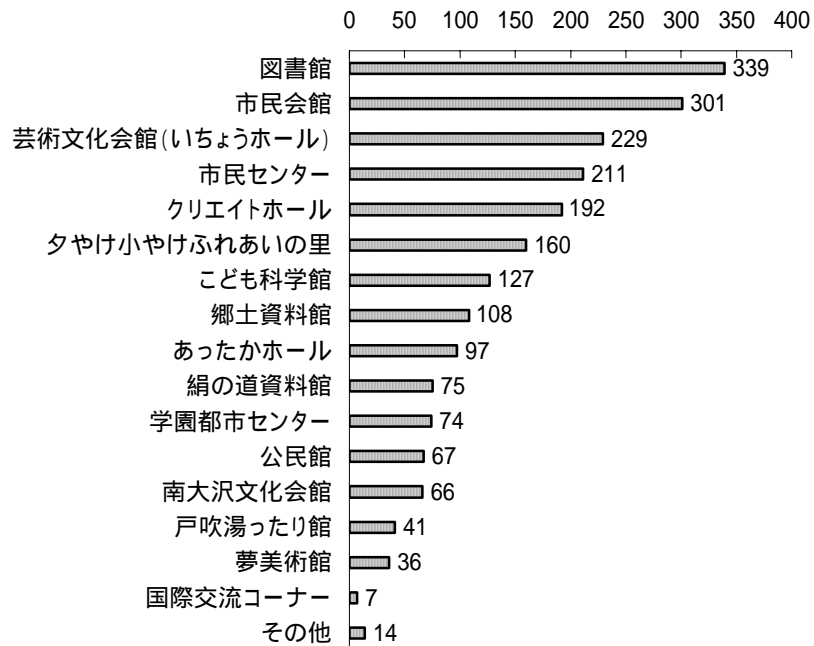
問5-2.あなたが、これから取り組みたいと思う文化活動は何ですか？



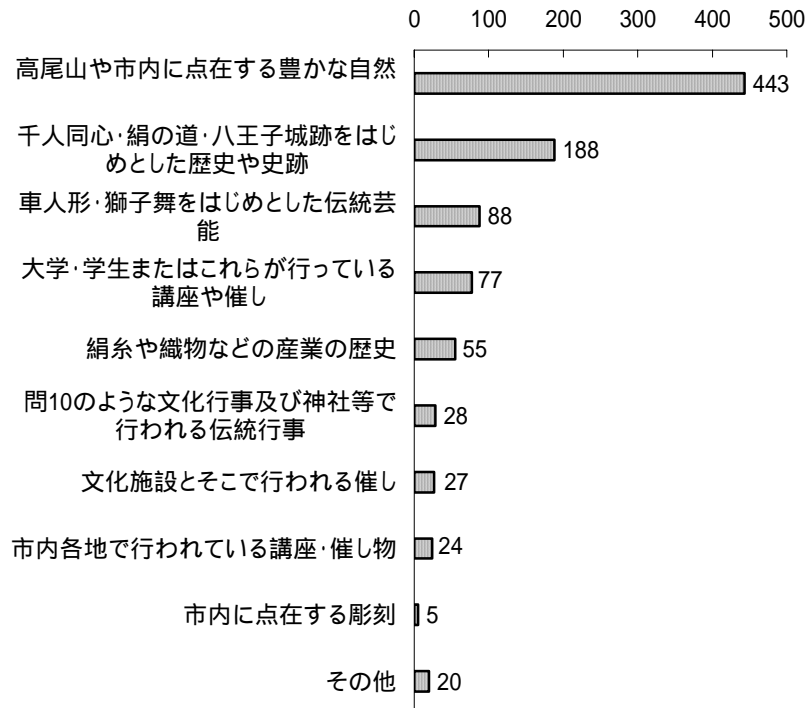
問7. あなたが取り組む文化活動を、より活発に、より深く楽しむようにするには、どのような場所が必要ですか？



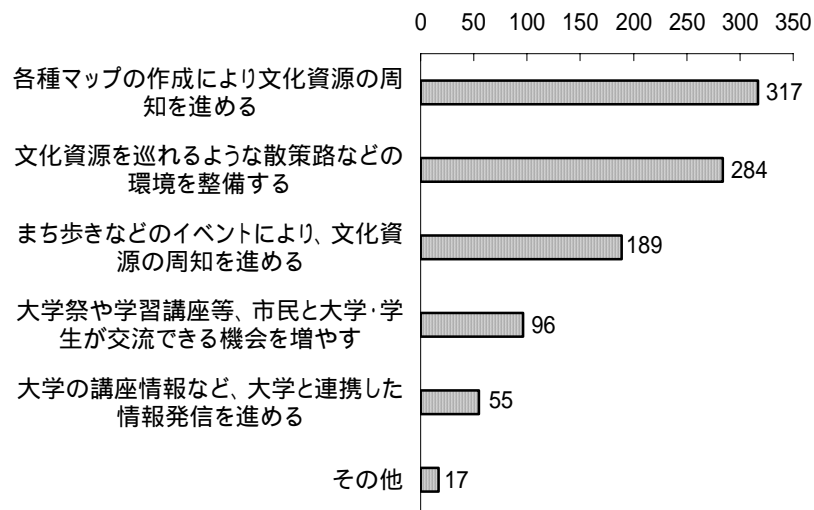
問11. 利用したことがある施設はどこですか？



問 13 . 八王子市をアピールできる文化的資産は何だと思えますか？



問 17 . 八王子市には、高尾山をはじめとした自然や、千人同心屋敷跡・絹の道・八王子城跡などの歴史資源・史跡、大学やそこで催される学習講座など、さまざまな文化資源が点在しています。これらの文化資源を有効活用するためにどのような取組を期待しますか？





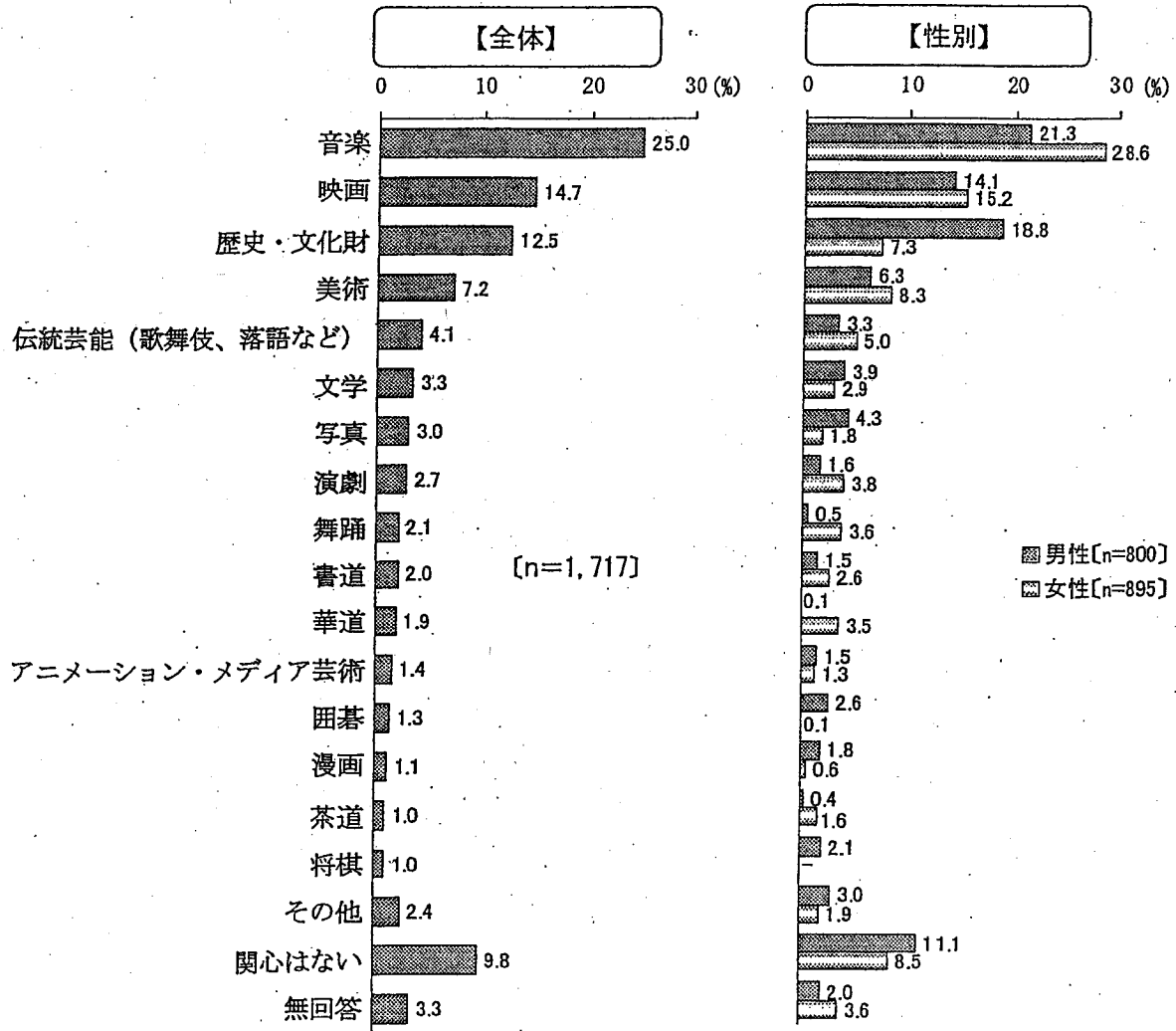
### 3. 『市政世論調査報告書(平成15年)』「文化振興の推進」(抜粋)

#### 4-1 最も関心のある芸術・文化

◇「音楽」が4人に1人でトップ。続く「映画」と「歴史・文化財」は1割台

問21 あなたは、芸術・文化のどのような分野に最も関心がありますか。(○は1つだけ)

<図表4-1>最も関心のある芸術・文化(複数回答)



最も関心のある芸術・文化では、「音楽」(25.0%)が最も高く4人に1人で、続いて、「映画」(14.7%)と「歴史・文化財」(12.5%)が1割を超える。一方、「関心はない」(9.8%)が1割弱いる。

#### 【性別】

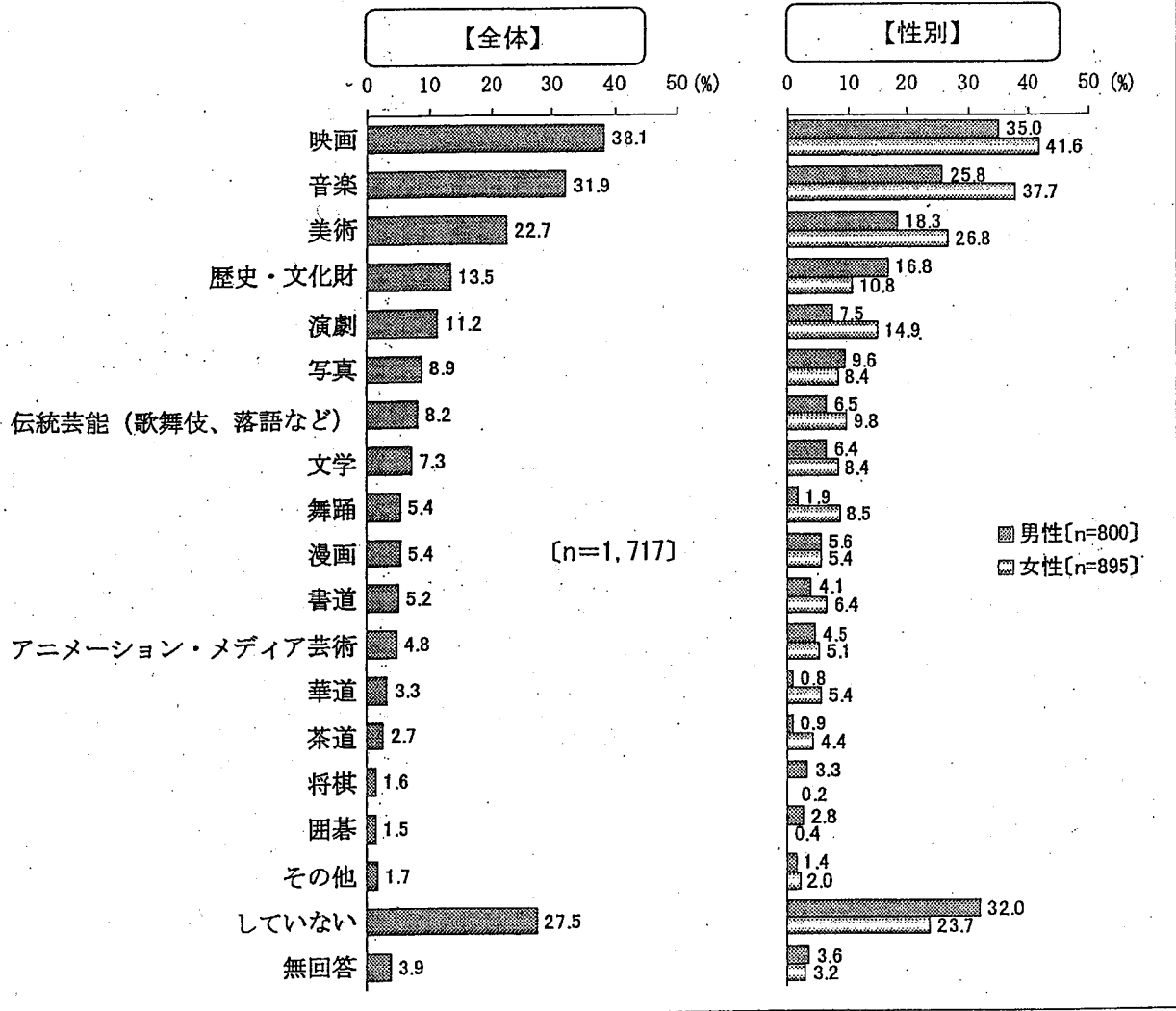
「音楽」は女性の方が男性よりも7ポイント高く、逆に、男性は「歴史・文化財」で12ポイント上回る。(図表4-1)

4-2 1年間に鑑(観)賞または参加した芸術・文化活動

◇「映画」が約4割でトップ。続く、「音楽」は3割強

問22 あなたがこの1年間に鑑(観)賞または参加した芸術・文化活動は、どのようなものですか。  
(〇はいくつでも)

<図表4-2> 1年間に鑑(観)賞または参加した芸術・文化活動(複数回答)



1年間に鑑(観)賞または参加した芸術・文化活動としては、「映画」(38.1%)が約4割で最も高く、「音楽」(31.9%)が3割を超え続く。このほか、「美術」(22.7%)が2割を超え、「歴史・文化財」(13.5%)と「演劇」(11.2%)が1割を超える。一方、「していない」(27.5%)が約3割と比較的高くなっている。

【性別】

多くの項目で女性の方が男性よりも高く、違いが目立つものをあげると、「音楽」の12ポイント、「美術」の9ポイント、「映画」と「演劇」、「舞踊」の7ポイント差などがある。逆に、男性は「歴史・文化財」で6ポイント上回っている。

また、「していない」は男性の方が女性よりも8ポイント高い。(図表4-2)

# 平成17年度市政モニター 第2回アンケート結果

テーマ：八王子の歴史について

八王子市総合政策部広聴広報室

# 目 次

テーマ：八王子の歴史について ..... 1

## ≪ 市政モニターの属性 ≫

(太枠内は今回の回収数)

		一般		Eメール		合計	
全体		41	40	57	56	98	96
性別	男性	14	14	26	26	40	40
	女性	27	26	31	30	58	56
年代	10歳代	1	1	1	1	2	2
	20歳代	5	4	7	7	12	11
	30歳代	11	11	21	20	32	31
	40歳代	0	0	8	8	8	8
	50歳代	4	4	9	9	13	13
	60歳代	13	13	6	6	19	19
	70歳代	7	7	5	5	12	12
地域	中央 (本庁地区)	5	5	13	13	18	18
	西南部 (浅川・横山・館地区)	9	9	13	13	22	22
	東部 (由木・由木東・南大沢地区)	5	5	9	8	14	13
	西部 (元八王子・恩方・川口地区)	10	10	6	6	16	16
	東南部 (由井・北野地区)	8	7	13	13	21	20
	北部 (加住・石川地区)	4	4	3	3	7	7

※ アンケート実施期間:平成17年9月28日から 平成17年10月7日まで ※回収率:98.0%

※ 回答は各質問の回答者数(n)を基数とした百分率(%)で表示した。(百分率は、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合がある。また、複数回答の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。)

# テーマ 八王子の歴史について

生涯学習スポーツ部 文化財課

本市は西部に関東山地をひかえ、そこから続く丘陵地帯や市内を流れる浅川など自然に恵まれた地域です。ここには古代から先人たちが住み、代々生活を営むなかで、本市固有の歴史と文化を育んできました。

市は「八王子ゆめおりプラン」の中で、市民が地域の歴史や文化に日ごろから愛着と誇りを持ち、保存・活用をはかりながら、地域の伝統文化・芸能を次世代に継承していける環境づくりをめざし、「市の歴史や伝統文化に対する市民の理解度」を指標に掲げています。そこで、今後の文化財行政の施策展開の参考とするため、皆様の郷土の歴史や伝統文化についての認知度等をお伺いします。

問1. あなたは、八王子市に住んで何年になりますか。(○は1つだけ)

	(n=96)	(n=40)	(n=56)
	合計(%)	一般(%)	メール(%)
20年以上	37.5	45.0	32.1
3～10年未満	22.9	15.0	28.6
生まれてからずっと	15.6	15.0	16.1
10～20年未満	13.5	12.5	14.3
1～3年未満	7.3	7.5	7.1
1年未満	3.1	5.0	1.8

◆八王子市での在住年数を聞いたところ、「20年以上」が37.5%と最も多く、「3～10年未満」が22.9%、「生まれてからずっと」15.6%となっている。

問2. 市の歴史や伝統文化に関心がありますか。(○は1つだけ)

	(n=96)	(n=40)	(n=56)
	合計(%)	一般(%)	メール(%)
少し関心がある	45.8	35.0	53.6
大に関心がある	34.4	45.0	26.8
あまり関心がない	17.7	20.0	16.1
まったく関心がない	2.1	0.0	3.6

◆市の歴史や伝統文化に関心があるかを聞いたところ、「少し関心がある」(45.8%)が4割半ばで最も高く、「大いに関心がる」(34.4%)を合わせると『関心がある』(80.2%)が8割を占める。

問3. 市の郷土資料館に行ったことがありますか。(○は1つだけ)

	(n=96)	(n=40)	(n=56)
	合計(%)	一般(%)	メール(%)
一度も行ったことがない	34.4	32.5	35.7
数回行ったことがある	30.2	35.0	26.8
一度だけ行ったことがある	20.8	22.5	19.6
郷土資料館があることを知らなかった	14.6	10.0	17.9

◆郷土資料館に行ったことがあるか聞いたところ、「一度も行ったことがない」(34.4%)が3割半ばで最も高く、「郷土資料館があることを知らなかった」(14.6%)を合わせた『行ったことがない』(49.0%)がほぼ5割となっている。

問4. 「八王子の文化財」で知っている、または見たことがある文化財はありますか。

(○は1つだけ)

	(n=96)	(n=40)	(n=56)
	合計(%)	一般(%)	メール(%)
ある ⇒ それは何ですか。(具体的な名称をご記入ください)	52.1	55.0	50.0
ない	47.9	45.0	50.0

◆「八王子の文化財」を知っている、または見たことがあるかどうか聞いたところ、「ある」(52.1%)が5割を超えている。

#### 具体的な名称

八王子車人形(16)、八王子城跡(12)、絹の道資料館(10)、高尾山薬王院(10)、山車(6)、片倉城跡(5)、小仏関跡(3)、滝山城跡(3)、櫛田遺跡公園(3)、山車人形(2)、信松院(2)、織物(2)、小泉屋敷(2)、高尾山タコ杉、幻境の地、鳥栖観音、武蔵陵墓地、高月町福の神、桑の木、獅子舞、郷土資料館、桑都日記、桂福寺鐘楼山門、からくり人形、広園寺、諏訪神社

問5. 文化財を紹介する説明板等を、市内で見たことがありますか。

(○は1つだけ)

	(n=96) (n=40) (n=56)		
	合計(%)	一般(%)	メール(%)
ない	62.5	50.0	71.4
ある ⇒ (見た場所を具体的にご記入ください)	37.5	50.0	28.6

◆文化財を紹介する説明板を見たことがあるかどうか聞いたところ、「ない」(62.5%)が6割を超えている。

### 具体的な場所

八王子城跡(6)、絹の道資料館(5)、滝山城跡(2)、極楽寺(2)、高尾山ロープウェイ乗り場、並木町交差点、信松院前、興林寺、弘安の板碑、塩野適斎の墓、八王子まつりに使われている山車人形の倉庫、図書館、いちょうホール、霊園前バス停近く、高月、八王子市民会館、小仏関所跡、甘里古戦場跡、多摩御陵入口、大義寺、桂福寺鐘楼山門、公民館、小泉家前、広園寺の前、高尾山、櫛田遺跡、御衣公園、鍮水、片倉城跡、郷土資料館、松姫庵、小仏関所

問6. 以下の中で、今後充実してほしいものは何ですか。(○はいくつでも)

	(n=96) (n=40) (n=56)		
	合計(%)	一般(%)	メール(%)
文化財マップ	61.5	65.0	58.9
文化財ガイドブック	56.3	65.0	50.0
文化財に関する市のホームページ	44.8	35.0	51.8
文化財の案内板や説明板	31.3	35.0	28.6
八王子城跡	27.1	35.0	21.4
郷土資料館	20.8	30.0	14.3
絹の道資料館	10.4	15.0	7.1
その他(具体的にご記入ください)	4.2	7.5	1.8
特になし	2.1	2.5	1.8

◆今後充実してほしいものを聞いたところ、「文化財マップ」(61.5%)が6割を超え最も高く、次いで「文化財ガイドブック」(56.3%)、「文化財に関する市のホームページ」(44.8%)などの順となっている。

## その他

1. 文化財講演会（毎月一回くらい、シリーズで）
2. 文化財ボランティアガイドの育成
3. 小野城、浄福寺城、初沢城、滝山城、栲田遺跡、大谷遺跡等のアクセス・案内板

問7. 地域の歴史や伝統文化を次世代に継承していくには、どのようなことが必要だと思いますか。また、文化財の保存・活用に関するご意見やご希望などがありましたら、ご記入ください。

（自由記入） → P. 13以降に記載

- 次の設問からは、前出の問6でお伺いした文化財マップや文化財に関する市のホームページ等の内容充実に活用させていただくため、具体的な本市の郷土の歴史や伝統文化についての認知度をクイズ形式でお聞きします。

問1. 実際に行ったことのある場所はどこですか。

（〇はいくつでも）

	(n=96)	(n=40)	(n=56)
	合計(%)	一般(%)	メール(%)
高尾山薬王院（飯縄権現堂（いづなごんげんどう）・不動堂・大師堂）	81.3	82.5	80.4
多摩御陵	70.8	80.0	64.3
八王子市郷土資料館	49.0	57.5	42.9
八王子城跡	44.8	50.0	41.1
滝山城跡	38.5	50.0	30.4
絹の道（絹の道資料館）	32.3	32.5	32.1
小仏関跡（こぼとけせきあと）	29.2	30.0	28.6
栲田（くぬぎだ）遺跡公園	27.1	27.5	26.8
廣園寺（こうおんじ）	15.6	25.0	8.9
中田遺跡公園	10.4	15.0	7.1
いずれも行っていない	9.4	5.0	12.5

◆実際に行ったことのある場所を聞いたところ、「高尾山薬王院」(81.3%)が8割を超え最も高く、次いで「多摩御陵」(70.8%)、「八王子市郷土資料館」(49.0%)などの順となっている。



問2. 実際に体験・参加したり、見たことのある市内の伝統芸能や伝統的な行事はどれですか。(〇はいくつでも)

	(n=96) (n=40) (n=56)		
	合計(%)	一般(%)	メ-ル(%)
八王子まつり<山車や山車人形>	57.3	67.5	50.0
高尾山の祭りや行事	34.4	37.5	32.1
八王子車人形	30.2	35.0	26.8
小正月のどんど焼き<市内各地 せえの神・だんご焼き>	18.8	22.5	16.1
まんじゅう祭り<諏訪神社>・生姜(しょうが)まつり<永福稲荷神社>・団子まつり<浅間神社>のいずれか	12.5	20.0	7.1
獅子舞(市内8団体)	10.4	12.5	8.9
木遣(きやり)	5.2	10.0	1.8
説経節(せっきょうぶし)	3.1	7.5	0.0
福の神<高月町滝地区>	1.0	2.5	0.0
その他市内の祭りや行事(具体的にご記入ください)	15.6	25.0	8.9
いずれも体験・参加したり、見たことがない	29.2	22.5	33.9
無回答	1.0	2.5	0.0

◆実際に体験や見たことのあるものを聞いたところ、「八王子まつり」(57.3%)が6割近くと最も高く、次いで「高尾山の祭りや行事」(34.4%)、「八王子車人形」(30.2%)などの順となっている。

### その他

いちょう祭り(2)、酉の市(2)、町内盆踊りどんどやき、唐がらし地藏祭り、七福神参り

問3. 八王子市には原始・古代の遺跡が多数あります。特に縄文時代中期(約5000年から4000年前)の遺跡が最も多く、柵田遺跡は国指定史跡となっています。さて、八王子の遺跡発掘で命名された考古学の学術用語がありますが、その用語は次のどれですか。(〇は1つだけ)

- 1 敷石住居跡(しきいしじゅうきょあと)
- 2 方形周溝墓(ほうけいしゅうこうぼ)
- 3 勝坂式(かつざかしき)土器
- 4 亀ヶ岡式(かめがおかしき)土器
- 5 知らない

正 解	(n=96)	(n=40)	(n=56)
	合計(%)	一般(%)	メル(%)
2 方形周溝墓 (ほうけいしゅうこうぼ)	15.6	25.0	8.9

◆正解率15.6%

問4. 中山の白山神社境内から、平安時代の仁平4年(1154)に経巻(お経の巻物)などが埋められた「経塚(きょうづか)」が発見されています。経巻の奥書(末尾)には、浅川北岸から日野・由木付近にあった平安時代から室町時代にかけての荘園(しょうえん)の名が書かれています。この荘園の名前はどれですか。(○は1つだけ)

- 1 山の根荘
- 2 横山荘
- 3 由井荘
- 4 櫛田(くぬぎだ)荘
- 5 船木田(ふなきだ)荘
- 6 知らない

正 解	(n=96)	(n=40)	(n=56)
	合計(%)	一般(%)	メル(%)
5 船木田(ふなきだ)荘	21.9	30.0	16.1

◆正解率21.9%

問5. 八王子には「浅川を 渡れば富士の かげきよく 桑の都に 青嵐ふく」という歌が残されています。これは伝説ですが、ある人物が「桑都(そうと)」(織物の町八王子の美称)と唱えたというものです。さて、この歌を詠んだとされる人物は誰ですか。

(○は1つだけ)

- 1 西行
- 2 松尾芭蕉
- 3 小林一茶
- 4 知らない

正 解	(n=96)	(n=40)	(n=56)
	合計(%)	一般(%)	メル(%)
1 西行	32.3	45.0	23.2

◆正解率32.3%

問6. 八王子という地名の由来は、ある城主がそこに古くから祀られていた八王子権現を守護神としたことによりますが、その神社は次のどこに祀られていますか。

(○は1つだけ)

- 1 片倉城跡
- 2 滝山城跡
- 3 八王子城跡
- 4 高月城跡
- 5 浄福寺城跡
- 6 知らない

	(n=96)	(n=40)	(n=56)
正 解	合計(%)	一般(%)	メール(%)
3 八王子城跡	35.4	50.0	25.0

◆正解率35.4%

問7. 戦国時代最後の山城といわれる八王子城は、天正18年(1590)に、豊臣秀吉軍の上杉景勝や前田利家らに攻められて落城しました。そのときの八王子城主は誰ですか。

(○は1つだけ)

- 1 北条早雲(そううん)
- 2 北条氏照(うじてる)
- 3 北条氏邦(うじくに)
- 4 北条時宗(ときむね)
- 5 知らない

	(n=96)	(n=40)	(n=56)
正 解	合計(%)	一般(%)	メール(%)
2 北条氏照(うじてる)	36.5	37.5	35.7

◆正解率36.5%

問8. 現在の八王子の市街地は、江戸時代のはじめに甲州街道を軸にして計画的につくられ、

当時の間口4間奥行き36間の区画が今でも一部に残っています。では、現在の市街地に移る前の八王子のまちは、次のどこにあったのでしょうか。(○は1つだけ)

- 1 片倉城下
- 2 八王子城下
- 3 滝山城下
- 4 初沢城下
- 5 高尾山麓
- 6 知らない

	(n=96)	(n=40)	(n=56)
正 解	合計(%)	一般(%)	メール(%)
2 八王子城下	33.3	47.5	23.2

◆正解率33.3%

問9. 江戸時代の初めに町囲いの堤防を築造し、甲州街道をつくって現在の八王子のまちの基礎を築いた人物は次の誰ですか。(○は1つだけ)

- 1 北条氏照
- 2 長田作左衛門 (おさださくざえもん)
- 3 徳川家康
- 4 設楽左衛門 (したらもくざえもん)
- 5 大久保長安 (ながやす)
- 6 知らない

	(n=96)	(n=40)	(n=56)
正 解	合計(%)	一般(%)	メール(%)
5 大久保長安 (ながやす)	21.9	35.0	12.5

◆正解率21.9%

問10. 江戸時代、八王子の市街地は甲州街道に沿う宿場町でした。当時、市街地には複数の町があって、横山口口宿、または八王子口口宿とっていました。口口に当てはまる数字を一つ選んでください。(○は1つだけ)

- 1 八
- 2 十三
- 3 十五

- 4 十八
- 5 三十三
- 6 知らない

	(n=96)	(n=40)	(n=56)
正 解	合計 (%)	一般 (%)	メ-ル (%)
3 十五	22.9	37.5	12.5

◆正解率22.9%

問 11. 現在の八王子市街地では、江戸時代に月に6回の六斎市（ろくさいいち）が開かれ、江戸近郊における交易の中心地でした。江戸後期には周辺の農山村で生産されたものを取引する縞市（しまいち）という市が盛んとなりました。では、この縞市で取引された品物は何ですか。（○は1つだけ）

- 1 薪（まき）
- 2 絹織物
- 3 綿織物
- 4 炭
- 5 柏（かしわ）の葉
- 6 塩
- 7 海産物
- 8 知らない

	(n=96)	(n=40)	(n=56)
正 解	合計 (%)	一般 (%)	メ-ル (%)
2 絹織物	69.8	77.5	64.3

◆正解率69.8%

問 12. 今から 205 年前の寛政 12 年（1800）に、八王子市千人町を本拠地としていた武士集団の八王子千人同心は、蝦夷地の警備と開拓に行きました。また、江戸時代に二百年以上にわたって火の番を公務としていました。これらのことが縁で姉妹都市となっている市が二ヶ所あります。次のどことどこですか。（○は2つ）

- 1 函館市
- 2 苫小牧市
- 3 旭川市

- 4 日光市
- 5 鹿沼市
- 6 小田原市
- 7 知らない

正 解	(n=96)	(n=40)	(n=56)
	合計(%)	一般(%)	メール(%)
2 苦小牧市	59.4	65.0	55.4
4 日光市	57.3	62.5	53.6

◆正解率 「苦小牧市」59.4% 「日光市」57.3%

問 13. 八王子市も含めた三多摩は以前、神奈川県でした。三多摩が神奈川県から東京府になったのは次のいつですか。(○は1つだけ)

- 1 明治16年
- 2 明治26年
- 3 明治36年
- 4 大正6年
- 5 知らない

正 解	(n=96)	(n=40)	(n=56)
	合計(%)	一般(%)	メール(%)
2 明治26年	20.8	25.0	17.9

◆正解率20.8%

問 14. 大正天皇の陵墓が、関東で、はじめての天皇陵として昭和2年に現在の八王子市内につくられました。そのつくられた場所は、当時は何村(町)でしたか。

(○は1つだけ)

- 1 由木村
- 2 元八王子村
- 3 小宮町
- 4 横山村
- 5 加住村
- 6 知らない

		(n=96)	(n=40)	(n=56)
正 解		合計 (%)	一般 (%)	メ-ル (%)
4	横山村	34.4	40.0	30.4

◆正解率34.4%

問 15. 八王子が、町から市になったのはいつですか。(○は1つだけ)

- 1 明治 18 年
- 2 明治 26 年
- 3 大正 6 年
- 4 大正 12 年
- 5 知らない

		(n=96)	(n=40)	(n=56)
正 解		合計 (%)	一般 (%)	メ-ル (%)
3	大正 6 年	30.2	42.5	21.4

◆正解率30.2%

問 16. 八王子市は、複数の町や村と合併して今日に至っています。合併した時期の早いものから順に並べてみました。正しいのはどれですか。(・で区切られている村とは同時に合併したという意味)(○は1つだけ)

- 1 小宮町、横山・元八王子・恩方・川口・加住・由井村、浅川町、由木村
- 2 由木村、浅川町、横山・元八王子・恩方・川口・加住・由井村、小宮町
- 3 浅川町、横山・元八王子・恩方・川口・加住・由井村、小宮町、由木村
- 4 横山・元八王子・恩方・川口・加住・由井村、由木村、小宮町、浅川町
- 5 知らない

		(n=96)	(n=40)	(n=56)
正 解		合計 (%)	一般 (%)	メ-ル (%)
1	小宮町、横山・元八王子・恩方・川口・加住・由井村、浅川町、由木村	12.5	17.5	8.9

◆正解率12.5%

問 17. 江戸時代から昭和前半まで、農山村では農林業とともに様々な産業が行われていました。それらは地域の伝統産業として暮らしを支え、発展したものもあります。次に取り上げた左の産物と関係する右の地名を結んでください。

- |             |                      |
|-------------|----------------------|
| 1 目籠（めかご）   | ア 高月町・平町・大和田町など      |
| 2 炭         | イ 西寺方町（大幡（おおはた））     |
| 3 大根        | ウ 宇津貫町・東中野・堀之内など     |
| 4 手漉（てす）き和紙 | エ 上恩方町（案下（あんげ））・下恩方町 |
| 5 鮎         | オ 高倉町                |

		(n=96)	(n=40)	(n=56)
正 解		合計(%)	一般(%)	メール(%)
2 炭	→エ 上恩方町（案下（あんげ））・下恩方町	44.8	65.0	30.4
3 大根	→オ 高倉町	40.6	52.5	32.1
4 手漉（てす）き和紙	→イ 西寺方町（大幡（おおはた））	38.5	45.0	33.9
5 鮎	→ア 高月町・平町・大和田町など	34.4	50.0	23.2
1 目籠（めかご）	→ウ 宇津貫町・東中野・堀之内など	25.0	30.0	21.4

◆「炭 → 上恩方町（案下）・下恩方町」（44.8%）の正解率が4割半ばと最も高く、次いで「大根 → 高倉町」（40.6%）、「手漉き和紙 → 西寺方町（大幡）」（38.5%）などの順となっている。



P. 4の「問7」について

地域の歴史や伝統文化を次世代に継承していくための方策や、文化財の保存・活用に関するご意見やご希望。

(自由記入)

1. 八王子の歴史や伝統文化については、中学校の副読本「伸びゆく八王子」でごくわずかに触れているに過ぎない。「八王子文化史」といった副読本を製作し、3年間の中学学習で全員が必ず学ぶよう学習計画に盛り込むようにする。また、市内、小・中・高校の授業の中で、年何回か文化財見学コースを必修として受けさせる。  
一般市民を対象とした「文化財見学ツアー」をシリーズ形式で実施し、講演会を定期的に開催する。参加者には実費を負担してもらう。  
手軽で読物としても面白い「八王子の歴史」(仮称)を郷土資料館で発行し、全国的にPRし一般書店で販売する。カラー写真、地図、グラフ等を多数入れて資料としても参考になるものにし、定価1,500円~2,000円位とする。
2. 現在の世帯主の内、八王子生まれ以外の市民の大半は、自分を含め現役時代は、ベッドタウンとしての八王子市民であり、本市の歴史と環境を知る人は少ないと思う。市内の小・中学校で歴史を教わった人を除き、定年後、時間のゆとりができ初めて関心のある市民が八王子を知ったのではないだろうか。  
例えば、郷土資料館に展示してある内容の歴史と環境を書いた「小冊子」を作成してはどうか。その「小冊子」を市民に配布し、転入者には転入時に配布すれば、歴史ある八王子市民としての誇りを持ち、環境保全等にも取り組むのではないか。設問6の充実以前に「八王子市の概要」を分かりやすく市民に知らせたほうがよいと思う。市民でありながら八王子のことが分からない人が多いのではないだろうか。
3. 学校でのPR、駅でのマップ、図書館などに冊子の配布など。
4. (1) 車人形の例にあるように、芸術的な文化(獅子舞、山車など)伝統継承者の育成の継続  
(2) 史跡・遺址の整備復元事業の継続  
(3) 文化財の蒐集、保管、施設(資料館などは好例)の充実  
(4) 文化都市・学園都市をうたうのなら、もっと財政的支援(市予算の拡充)を図るべき。  
(5) バリアフリー、アクセスの改善の促進  
(6) 以上の策の実利によって「八王子文化教養」浸透のファンを増やすべき。
5. バス会社と1台の契約をし、伝統文化利用に限り無料で貸し出す制度を作る。例えば、夏休みに学童保育の生徒たちに一日八王子史跡めぐりをしてもらう。土日に子ども会にバス旅行として名所めぐりをしてもらう。中高年にはハイキングの本に掲載を依頼する。絹の道などはどの本にも載っていて知名度が高い。保存に関しては入場料を多少高くとっても館内の設備を充実させる必要があると思う。展示物が埃にまみれてはそれだ

けで興味が薄らいでしまう。人が集まりやすい祭日等には一日に何回か時間を決め館内説明員を用意し、その人に従いながら館内めぐりをする。

ともかく今回のクイズ形式のアンケートの答えが全く分からなかったことで、ただ住居を構えているだけの八王子市民だったかを再認識した。

6. 広く宣伝・広報活動をする必要があると思う。子どものいる家庭では、保育園や学校を通じての情報も有効かと思う。
7. 小・中学校のゆとりの時間の授業に「自分たちの郷土を知る」を組み込み、郷土愛を育む。課外活動で実際に文化財見て歩きをする。その際、楽しく解説してくれるガイドを付ける。
8. 八王子の歴史を分かりやすく、詳しくまとめた本を充実させるといいと思う。マンガにすると若者も読みやすいと思う。
9. 認知度クイズの内容は、大変興味深いものであった。私は30年以上八王子市に住んでいて、本市の歴史についてまったく知らなかったことを残念に思う。小・中学校時代に、八王子市の歴史や文化を知る機会があったらよかったと思う。
10. 近頃の若者や次世代を担う人々は、中々そういうことにはテレ屋が多いため応じるのが難しいと思うので、八王子のビッグイベントの「八王子まつり」や祭り関係のものに、ちょっと力を入れて若者が見てくれそうなものや要素があったらよいと思う。郷土資料館も、同じようにしたらよいと思う。
11. 若者に教えていくことや関心を抱かせる。また、大切にすることを常に持たせる。
12. 伝統文化や文化財についてどこに、どんな物があるのか知らない人が多いのではないかと思う。次世代に継承するためには、まず、市民に認知してもらうことが必要で、そのための一方法として歴史、文化財一覧表的なものをお金をかけずに作成、全戸配布し関心を持ってもらうのはどうか。また、保存、管理等に関しては、自治会や地区住民等に、一度、限度を決めてその範囲で任せたらどうか。
13. 子どもの遊べるスペースがあったら、もっと訪れる人々が増えていくのではと思う。
14. 郷土資料館をもっと友好的に活用すべきだと思う。折角、戦前・戦後はもとより、ずっと昔にさかのぼるたくさんの資料があるのだからPRをして人を呼ぶべきである。ただ、交通の便がよくないので、はちバスのようなバスを運行する等一考したほうがよい。
15. 市民がもっと興味を持つため、無料の一日ツアーを行ってほしい。是非、参加してみたいと思っている。地味な文化財かもしれないが、貴重な歴史の重みがあることを次の世代にも伝えていきたい。
16. 次世代に継続していくには、
  - (1) 弟子の育成。第一歩から根気よく興味と使命を教育し、末永く継続できる責任感を持つ人間を育ててほしい。
  - (2) 入場料等必要なときは、できるだけ安値にし、1人でも多くの観客に足を運んでもらい、一度訪れた人が次回は誰かを誘い、次々と輪を広げていけたらと思う。

17. 歴史とともに文化財の存在もほとんど知らなかった。この原因には、関心を持っていないことがあげられると思う。これからHP（ホームページ）の内容の充実や広報での普及、冊子やマップを作ったりしてもよいのでは。その際イラストや写真を入れて分かりやすい内容のものにしたらいと思う。お土産やグルメマップもあると楽しめそうである。市のHPの文化財を見たが、内容がさっぱりで、あっさりしすぎていると思う。もう少し文化財の説明を充実させて興味を持てる内容に変えたほうがよいのでは。地図が詳しくても、興味を持たなければ足を運ぶことはないと思う。八王子の歴史を知る上で、高齢者の方々からお話を聞く機会を持つことも一案ではないかと考える。
18. 地域の歴史に基づいたストーリーのマンガや小説があれば、小さい子どもや学生が楽しく八王子の歴史を学ぶことができるのではないだろうか。内容も教科書じみたものではなく地域の歴史を背景とした恋愛、ホラー、ミステリー物などにすればさらに親しみやすくいいと思う。一般公募でそのような漫画、小説を書いてくれる方を募集してみてもどうか。
19. 文化財課が主管で庁舎内へのポスター掲示等により来庁者などにPRする。保存については、当該地域の市民センターのイベント等で活用するとともに保存を検討する。
20. (1) 中学校の授業で副読本をつくり、取り上げること。  
(2) 副読本を市民の見えるところに置き、希望者に配布する。  
(3) 市内には詳しい人がいるので指定管理者制度のような形で一定の額を支払い(市の職員より安く)管理を委託する。
21. (1) 地域の歴史や伝統文化を次世代に継承していくには、  
①語り継いでいく。②体験学習を実施する(主に青少年)。  
(2) 文化財の保存には(活用含む)、  
①意識の向上を図る。②保存方法を研究し継承していく。③ボランティアを活用する。
22. (1) 学校教科に取り入れることがよい。小学一年生から図や絵画で分かりやすく楽しく学べるようにする。  
(2) 小さい時から親子で地域の行事に参加させたり、八王子には色々な文化財があることを折にふれ話をして聞かせれば、子どもも次第に興味を持つようになる。
23. 学校の行事の中に郷土資料館等へ行く機会を設ける。また、公共の遊び場などに伝統文化に触れられるコーナーを設置し、子どもや親に体験してもらおう(例えば、愛川公園では、糸でヒモを作る編み機が置いてあり実際に編んでみるができる。編んだヒモは持って帰ることができ、子どもたちは手首などに結んで喜んで帰っている)。
24. 写真入りの図書の発行
25. 文化財マップや文化財ガイドブックを充実して、身近なところで見ることができるようしてほしい。例えば、駅などで見ることができれば電車を待つ時間などに知識を得ることができ訪れやすいと思う。子どもたちには、低学年から社会科見学として取り入れると親しみを感じると思う。

26. 学校やケーブルテレビで文化財のことを紹介する。
27. (1)郷土資料館の整備、展示資料等の充実  
(2)文化財マップ、同ガイドブックの市民配布(上質のものを作り、有料にする)  
(3)学校教育、公民館活動等で郷土史をより積極的に採りあげ、市民の共有を深める。
28. 現在やっている次の活動の継続とその充実(世の中は、秘策よりも地道な活動のほうがより成果が上がる。なぜなら、多くの市民の理解と共感が得られるのは、身近で親しみやすい活動が勝るから)  
(1)小・中学校の教育(学習)への取込み  
①見学による学習 ②クラブ活動による学習 ③(講師による)話し合いによる学習  
(2)一般市民向けの活動  
①見学会 ②セミナー ③広報紙への記事 ④資料(パンフレット)の配置(公共の場所)  
(3)歴史、伝統文化活動に学生を今以上に参画してもらうことが大事
29. (1)継承していく手段一塾を開いて育成  
(2)保存と活用—資料館で保存のケースと、現場で保存するケースがある。予算をしっかりと計上し、メンテナンスも計算に入れる。冊子、広報紙、メディアの活用等でPR  
(3)ボランティアの活用
30. 子どもたちが遠足(課外授業)で車人形を操るところを見て感激していた。大人はなかなか見る機会がないので小・中学生の子どもたちに見聞きさせて感性を育ててほしいと思う。受け継ぐ子どもが出てくるかもしれない。
31. (1)学校教育の1つとして、「八王子の歴史」を入れる。  
(2)親が歴史について感心を深める。  
(3)子どもや家族とともに、「歴史の散歩コース」を設定し、子どもにも関心を持たせる。  
(4)広報紙でのPR
32. 学校、町内の集会、イベント、広報はちおうじ、市のホームページなどで八王子の歴史を学ぶ機会をたくさん与える。日帰りなどの市内観光で見学ツアーもしくは専門学校の専攻分野に取り入れる。やはり最初は関心を持つ比率が低いことを想定に、どんどんアピールすべきではないかと思う。
33. 「もっと気安く、気楽に」をモットーに文化財散策コースの利用、参加の交流と文化財に関する市のホームページ、ガイドブックを充実させる。八王子市は大学生も多いので若者たちへも分かりやすく愛着できるように、気軽に参加、参画できるようにする。
34. 文化財とその存在していた時代と遺跡の位置、他の遺跡との関連ガイドブック、マップ等、他の市のほうが整備されていると思われる。それらを含んだ市の小・中・高の社会科に取り入れること。また、加えて市の観光事業につなげられないか。是非、市中は勿論、他地域の人々を呼べるような観光地にして市の事業を活発にしてほしい。ただし、日野市で先手主催の「新撰組」のような一過性のものでなく、年中いろいろな地方から人々が来るような、例えば、京都、奈良、鎌倉のように他市と連携(小田原市、多摩市、

厚木市、日野市)し、後北条の盛衰を地理的、時系列的に行えるような事業、そして八王子で各種観光ボランティア宣伝的要素として小説、テレビ(大河ドラマのような)を行えばよいと思う。

35. 出前講座の利用。小・中学校の授業にどの程度組み込まれているのか知らないが、是非取り上げるべき。必ずしも教師が八王子出身とは限らないことを思うと、その道に詳しいボランティアの力を借りるのも一案かと思う。その地に出かけ歴史や伝統文化に身体で触れ、楽しい体験を織り交ぜながら興味を持たせる。

今回のアンケートを記入するにあたって市のホームページを開いてみたが、文化財に関するものは少ないと思った。子どもに限らず転入してきた人たちにとっても、身近に調べがつくHPやガイドブックの充実は必須である。新しいものが優先される昨今だが、温故知新の精神で歴史ある八王子をしっかりと語り、誇れる市民であるために勉強しなければと思った。

36. 次世代に継承していくためには、小さい頃から八王子のまち・道の由来や歴史にふれ八王子市に愛着を持ってもらうことが一番だと思う。また、子どもたちが年配の方と触れ合う機会を持つことも大切だと考える。

文化財の保存、活用については、本をつくったり、資料館なども活用してもらわないと意味がないと思う。八王子には多くの大学、特に有名な美大もあるので作品を発表する場を市がもっと提供したり、若者の意見を参考にするのもいいと思う。

37. 「八王子の文化財」については、あまり知られていないような気がする。小・中学生が授業の中で、自分の住んでいる地域のことを勉強する時間があればいいと思う。

38. 歴史や伝統文化の現代的意義を市民(特に子どもたち)に理解させる。小・中・高の歴史教科と関連させ、当該時代の郷土史・文化を織込む授業を行う。また、教科外の部活研究等で郷土史・文化に関するテーマを奨励する。

39. 「はちおうじ」などの広報紙に、八王子歴史シリーズや文化財の紹介シリーズを載せるというのも一案かと思う。資料館などの充実や宣伝も必要だろうが、こちらから出向くよりそちらから来てくれるという方が、まず、人々の関心を引くのにはいいかと思う。歴史や文化財に関するお祭りの行事なども資料館などよりは興味を持って出かけやすいと思う。

40. 義務教育期間中に地域の歴史を教えることにより、文化財に対する興味や関心が増し、ひいては保存活用が活性化されると思う。また、地域の歴史のある大きなお祭りには、少子化の時代には狭い地域に限定せず、八王子市内ならどこからでも子どもを積極的に参加させることが大切だと思う。もし時間が学校とかち合うようであれば、そのために子どもが学校にお祭り休暇を申請できてもいいかと思う。

また、成人向けに身近に受けられる講座や見学会があればいいと思う。あるのに知らないだけかもしれないが、もっと身近にし、年配者が多いイメージがあるので若手の歴史案内人等の育成はどうだろうか。

41. 今ある資料館などを、地元の小学生や中学生が楽しく校外学習できるような施設にしたらいと思う。また、市内の一般の方々が休日のんびり集い過ごせるようなもっと明るい雰囲気にして興味をもってもらおう。
42. 日本の歴史と八王子の歴史の位置づけなど学校教育、市民教育、各種資料のPR
43. テレビ等のメディアを使ってアピールする。また、学校教育に取り込んでいく。
44. 市だけでなく市民との協働によって、市民自らが自分の住んでいる地域の伝統を守っていききたい。
45. 私が育った町田市では、小学校の社会科の副教材に町田の歴史と文化、そして現在を紹介する冊子があり学んだ。今でも内容を憶えている。八王子市の児童・生徒も学んでいるのかもしれないが、副教材は有効かと思う。資料館などは社会科見学にも大いに取り入れたらよいと思う。勉強の成果として、マップなどを子どもたちが手作りしたりするのも面白いと思う。
46. これからの時代、地域の歴史や文化財を継承させることは、とても必要だと思う。八王子まつりの華やかさを見て、親が子どもに習わせたかったり、若い人たちの内には、山車のお神楽の踊りや笛、太鼓等、また車人形の操作など習いたい人たちがたくさんいると思う。何処に申し込んだら良いかわからない方がいると思うので、市の広報紙等で募集していただければと思う。
47. 現状の把握をまず行い、その状態から、どのようにするか検討したらよいと思う。
48. 学校で教える。公共施設で講演会を定期的を開催する。保存、活動費を明確に予算化する。
49. 小・中学校などで、社会科（今は生活科というのもあるのだろうか）の時間に文化財について自由研究させる。  
テレビ番組（ケーブルテレビよりは、キー局がいいと思う）で、八王子の文化について紹介してもらおう。
50. 強制するのは難しいかと思う。私もそうだが八王子も代々住んでいた人は少ないと思うので、あまり歴史とか強調せず、イベントとして参加するのが好きな人に協力してもらおう線で案内等出されては、と思う。
51. 子どもの頃から引越しが多く色々な地域に住んできたが、どの地域でも祭りや神社・文化財や町の歴史に関しての行事に対し、決して「押し付けや強制参加」ではなく、また、自治体や町内会への参加状況・在住年数や子どもの有無に関わらず自発的に参加出来る地域・状況が多かったように感じる。ただ、残念ながら八王子市に関しては、今まで住んできたどの地域にもない閉鎖的な感じがする。実はこれは八王子に住む前から感じていたことだが、八王子まつりなどに関しても何となく「八王子（しかも駅周辺の昔からの居住者や台車神輿のある町）の人だけが参加して楽しんでいるお祭り」といった印象が強い。  
歴史に関しては資料を読んだり、資料館で勉強すれば知識としては身に付けられるが、

伝統文化や祭りのお囃子などは、経験者から体験を通して人から人へ伝承して行くことしかできない。血縁者や町内会で継承できるものはどんどんしていくべきだと思うし、できるだけ多くの人がそれに触れて知識や伝統芸を吸収・感動できれば自然と文化財や歴史・伝統文化についての興味も増し、また自発的な参加にもつながっていくのではないかと思う。

本市のように昔からの居住者が多い地域や新興住宅地、また学生の多い地域と子どもや老人の多い地域とが混在している大きな市は、こういった問題に対して全体を上手く取りまとめるのはとても大変だと思うが、時代背景も生活習慣も大きく変わっていく中で、それでも「伝統」として守りたい物があるのであれば興味のない人や新しい住民・システムを排除して今まで通りのやり方で守っていくのではなく、どう変革をすればよりよく今後も継承・発展をしていけるかを考え実行して行くべきだと思う。

ただ、居住年数の限られている学生や周りに知っている人のいない他地域から引っ越してきた人たちに対して、「町内会員だから」「みんなやっていることだから」と強制的な行事参加を強いるのは、伝統行事や文化財の発展・保存に関してはマイナスにしかならないことなので気をつけるべきだと思う。

52. 八王子まつりのときに、それを駅の近くで宣伝するような催し物をやる。
53. 小・中学校の歴史教育のなかで取り上げること。
54. 小・中学校で地元の歴史や文化を教える（現在実施してるかも知れないが）。また、ガイドブック等を発行して市民に関心を持つように仕向ける等。
55. 資料などを見るだけにとどまらず、実際に体験するのもよいと思う。たとえば車人形を操作してみるなど。
56. 次世代継承について：市立小・中学校の授業として月1時間3年間で30回ほど、6年間60回勉強する（教育委員会の考え方がポイントとなる）。  
保存・活用について：保存・活用組織を作り、会員を募集し資金確保(市の予算化も当然必要)する。
57. 小さい頃から授業や社会見学、体験学習などを通して自分が住んでいる街の歴史に触れていると、八王子に対しても愛着がわくしいと思う。大人にもそういう勉強会や伝統文化を知る体験ツアーみたいなものがあったら面白そうだと思う。
58. 市の仕事として文化財の保護も大切だが、多くのところで住んだ人間にとっては、他の地区と比較して住民に対するサービスが不足していると思う。同じ税金を使うのであれば、まず現在住んでいる税金を納めている市民の生活を豊かにすることを第一に考えてほしい。そのためにモニターをしている。
59. 以前、インターネットで八王子の歴史について調べたことがある。そのときにたまたま、八王子の方言を見つけ興味を持った。聞いたことのない言葉だったが、八王子にも方言があることを知り新鮮な気持ちになった。市民講座などで、一方的に八王子の歴史や伝統文化を次世代に継承するのもひとつの方法だが、ネット上でたまたま見かけたことを

主体的に調べていくことも伝承だと思う。ネットでそれらの情報の充実を図るといいと思う。既存の知識量が異なる子どもから高齢者まで楽しめ、見ていて楽しくなるような工夫があるといい。

60. 地域の歴史であるとすれば、北条氏が統治していた 1500 年代と江戸期の八王子千人同心が思い浮かぶ。しかし、勉強不足のため、具体的なことはあまりよく分からない。文化財は何かあるのだろうか。私の認識レベルはこの程度である。ついては、市民に限らず全国レベルで「八王子にはこんな歴史、文化財があります」と訴えていく方法を検討してほしい。
  61. 親子参加可の文化財ツアーを開催してはどうか。新春の七福神めぐりのようにスタンプラリー形式等も導入して、子どもたちに興味を持ってもらう企画をたくさん作る。
  62. (1) 小学校や中学校、高校の授業の一環で、地域の歴史や伝統文化を学ぶ機会を作る。  
(2) 資料館などの良さをもっとアピールしてほしい。
  63. 学校教育における継承。ガイドマップの充実と公共施設にそのガイドを自由に利用できるようにする。広報「はちおうじ」による「歴史の散歩道」の活用（マップ必要）、文化財に関連した他の地区との関連など色々な切り口で紹介してほしい。文化財に関する CD（DVD）の作成（小委員会を設置して内容をまとめる）。
  64. 八王子市に転入して 1 年弱である。周りも新しく入ってきた人ばかりで自治会とか地域のコミュニティもまだまだである。当然この地域や八王子のことなど語り継いでいただく機会もないのが現状だ。小学生の子どもが総合の授業などで、この地域を古くから知る数少ない方たちに聞きに行き、それをまとめたものを学校の発表で聞いて、へえ、そうだったのかと知るような次第である。こういう地域では、学校と地域の交流、つながりから少しずつ親の私たちも知っていくのが、まずはじめの一步だと思う。
  65. 小学校時代から社会科の教材として身近に取り上げたり、訪問の機会を作る。大学などとも協働して、活用などのアイデアを出し合っていく。
  66. 郷土資料館の拡充（展示スペースが少ないのでは）、八王子城復元。
  67. 市民に対する啓蒙が大事だと思う。色々な機会を捉えてアピールしてほしい。
  68. 学校教育の場ではもちろん、紹介するセミナーを活用してもいいと思う。仕事をしていると、どうしてもそのようなことに目をむける余裕がない。子育てしている方もそうであろう。なにかかわいいキャラクターを作って、目をひくようにしてもよい。
  69. 歴史文化を次世代に継承していくためには「もともと八王子に住んでいる人」「仕事・学校に通っている人」「新しく市に転入した人」それぞれが興味・関心をもって身近に感じるような情報提供の手段が必要だと考える。
- 問 6 でホームページを充実してほしいと答えた。理由は、HP が「いつでも」「誰でも」「どこでも」情報を手に入れることができるからである。

今は「トップ→こんなまち八王子（観光）→歴史文化」と階層が深く歴史文化を調べる意図で訪ねる人向きであり、興味があまりない人にとっては見る機会はとても少ないと



思う。

「トピックス」としてトップページから直接リンクがあるとクリックしてみたりするので、今回のアンケートのように歴史文化クイズをHPに掲載してはどうか。

70. 次世代に継承する方法として、小・中学校の授業「総合」などの時間を使って「資料館」を見学させる。その感想文などをまとめた冊子を発行する。インターネットでその内容も公開する。市内の小・中学生自身に「文化財マップ」を作らせてみたり、インターネットのホームページを作成させるのも面白いのではないかな。

文化財の保存・活用については、当時のままの状態を大切に保存するとともに、多くの人の目にふれさせた時に、小・中学生でも分かりやすく、興味を惹くようなガイド・説明、ディスプレイの工夫が必要かと思う。おとなの声で丁寧にガイドする教科書的なやり方ではなく、子どもの声も活用して、ガイドするおとなと質問する子どもの声、というような感じでQ&A的な表現で資料館などでも紹介していくと面白いのではないかな。

71. いちょう祭りなどで伝統文化の発表を定番化し、市民向けの紹介と若者の関心を引き出し後継者育成につなげる。
72. 学校の授業に取り入れるなどして、子どもたちに地域の歴史や伝統文化に触れる時間を設ける。実際に見に行くなど。
73. 引き続き広報紙などで紹介をしながら、まちの至る所に看板等を設置し、周知することが必要。
74. 小学校や中学校での、社会科見学で学習することが良いと思う。
75. 郷土史紀行などの企画 ウォーキングで数箇所回る。
76. 歴史、伝統文化とも代々受け継いでいってほしい貴重な財産なので、地域の学校での課外授業などで若い世代に「存在を知ってもらおう」ことがまずひとつあると思う。また、市内の文化財、由緒のある場所などに説明板を設置し、気軽に歴史に触れることができるようにすることも必要かと思う。
- 一方、こういった場所、物の維持には郷土資料館や市教育委員会、市役所だけでは難しいところもあるだろう。市内からボランティアを募集して保守・管理などを行うのも手ではないだろうか。
77. 文化財の情報を幅広く、分かりやすく、時には強制的にでも流すべきだと思う。人間は基本的に必要がなければ情報を集めようとしなない。実際に私も文化財がどこにあるのかわからない。まず、ホームページで紹介すると同時に小学校あるいは中学校で文化財を調査して、理解を深めさせることが必要ではないかと思う。
78. やはり若い人たちへの広報活動が必要だと思う。小さいころに感じた文化財の感触などは時が過ぎても印象が強く残っているものだと思う。
79. 学校の社会科見学に組み込む。小・中学校での実演や講演の機会を設ける。人の集まる場所などで実演や講演会を設ける。
80. 八王子市に長年住んでいながら、クイズには頭を抱えてしまった。昨年までベッドタウ

ンにすぎなかったことを痛切に感じた。これからは身近な文化財の勉強をしていきたいと思う。色々な形でのPRを願う。

81. 八王子の大きな書店で八王子歴史コーナーを設け、関連書籍を並べて宣伝する。また、八王子まつり、いちょう祭りなど人が大勢集まるイベントで、地域の歴史に関連づけたスタンプラリーのようなレクリエーションを計画する。
82. もう少し子どもたちが興味を持つような行事を学校、幼稚園などで行えればよい。
83. 車人形や絹織物などもっとオープンにしたらよいと思う。市民が気軽に体験する場があったらよい。あとは学校教育の活用。総合的な学習の時間等、小学生から高校生まで幅広く知ってもらおう。大学の無料講座も活用できるのでは。
84. もっと案内板やガイドブック等を作るべきだと思う。特に八王子駅には必要であり、色々な方に知ってもらい、その場所に行ってもらおうことが文化財活用として成り立つのではないだろうか。八王子の自慢をさまざまな所に飾ってほしい。
85. 大人の感覚で進めることは、どうしてもおしきせになる。幅広い年齢層の意見を聞くことが必要。

項目	青森市	上越市	相模原市	横須賀市	寒川町	甲府市	松本市
策定趣旨	新青森市史編さんを円滑・効果的に遂行するため		「旧市史刊行から新市史編さんに至る経過。 既成の学問領域にとらわれず、新たな視点から市の歴史を見つめ直す。 市民の協力を得ながら継続的な研究、収集を行う。 本事業により自然・歴史が将来に継承されることに期待。	市制100周年記念の市史編さん及び刊行に関し、基本的事項を定める。			
編さん目的	市の歴史を明らかにする。 市民の郷土に対する理解を深め、誇りを高める。 史料を後世に伝える。 市の発展と文化の向上に資する。	高田、直江津の2大都市の合併により発展した上越市の豊かな環境と歴史の伝統を見直し、文化遺産を時代へ伝えていくために、上越市発足30周年記念事業として、新たに市史を編さんする。		市の歴史的発展過程の正しい理解、将来の展望に資し、郷土に対する市民の関心と愛情を深める。 市の歴史的資料を整理保存し、後世に伝える。 市の文化向上、教育振興を図り、市勢発展に寄与する。	資料の散逸を防ぐ 町の生い立ちを明らかにする町に対する町民の関心を高める 資料を後世に残す	市制100周年記念事業。 市の歩みを明らかにし、市の歴史を理解する資料を提供。 文化の啓発と愛郷心の高揚を促し、市政発展に資する。	市制90周年を記念 文化遺産を後世に伝え、市の建設に資する。
編さんの方針	原始古代～現代の市の歴史を明らかにし、北方世界における市の歴史的位置付けを解明する。 弘前藩の外港、県庁所在地として発展した市の近世～現代の過程を特徴的に表現する。 既刊の市史を参考としながら、新たな史料を発掘する。 学術的に高い水準を保ちながら、叙述は平易な文章で、写真、図版を用い、市民に親しみやすいものに、マルチメディアも活用する。 収集史料は、後世に伝えるよう配慮する。	市民本位・市民参加を基本とし、広く市民の理解と協力を得て、親しみやすい市史とする。 人権尊重、差別の理解。 この地方の中核であったことを踏まえ、地域の歴史を掘り下げるとともに、市の自然、歴史の特色を明らかにする。 行政の歴史に偏らず、自然や生活文化に根ざした広い視野に立った編さん。 地域の文化遺産に注目するとともに、市域を超えた系統的な資料収集を行い、組織的に整理保存する。	名称として「相模原市史」+各巻に表題を付す。 基本方針 旧市史で扱われていない時代、分野を編さんする。 歴史的記述は、第二次大戦終結から現在までに力点を置き、必要に応じ時代をさかのぼる。 歴史的事象に加え、考古、民族、美術史、自然科学等の分野を編さんする。 政治経済史、行政史だけでなく、生活史、市民生活の視点を尊重する。 高齢者、障害者など、多様な市民に配慮する。 調査研究、資料収集に、市民、市ゆかりの研究者の参画を得る。 国内外にわたる資料収集、調査研究を十分行う。 資料は永久的に保存し、活用を図る方策を検討する。	広く市民に親しまれる市史 市の原始・古代から現在までの発展の過程を明らかにし、日本、世界の中の市の位置を特色づける。 資料は市内だけでなく広範囲に収集する。 専門的な研究に耐えうる権威、格調高い内容を保つ 写真、図版、統計などを多く収録、平易な文章で記述する。	町民に親しまれる町史編さん。 古代から現代までの町の歴史を明らかにし、日本の中での町のしめる位置を説く。 資料を広範囲に収集し、客観的に解釈。 格調高い内容を維持するとともに、写真、図版を用い平易に記述する。 構成は「資料編」「通史編」「別編」とする。 普及のためのダイジェスト版を発行 「町史研究」を随時発行。 将来は資料館等を建設し、収集資料を保管活用する。	市の歩みを「通史編」「史料編」「別編」に編さんし、日本史全体と関連させ、市の発展を明らかにする。 民衆の立場で、民衆の生活実態を中心に据える。 親しみやすいよう、写真、図版等を多く掲載、表現は平明に。	日本史全体の流れと関連させながら市の歴史を捕らえる。 単なる記録の集成でなく、各時代ごとの市の特色を明らかにする。 写真、図版を取り入れ、読みやすく、親しみやすく。 市民の協力を得る。 資料を保存管理し、将来に伝える。
市史の内容 時代区分 規模 構成 等	通史編、資料編、別編に分ける。 時代区分は「原始・古代」「中世」「近世」「近代」「現代」。 通史編4巻、資料編9巻、別編8巻。各巻の内容記載あり。	通史編7巻、資料編7巻、別編6巻。各編の構成、巻数の記載あり A5判縦組み(自然編のみ横組み)・9ボ・各巻700p 各巻3000部発行 うち、有償配布2000部、無償配布+保管1000部 付属刊行物として「市史じょうえつ」の発行	構成として全10巻(別表に内容記載あり) 加えて、別冊「市史ダイジェスト版」の刊行 体裁「原則A5版」とし、内容によっては大型版も 書籍以外での媒体も検討 付帯事業として「編さんだより」「市史研究」等を随時刊行、講演会等も実施 頒布方法として「市民が購入しやすい価格設定」「販売促進のための広報活動」「市民が購入しやすい方法」	時代区分は「原始・古代」「中世」「近世」「近代」「現代」。各区分の年代を規定。 全14巻で各巻A5判800p。資料編7巻、通史編2巻、別編5巻	時代区分は「原始・古代」「中世」「近世」「近代」「現代」。各区分の年代を規定。 全15巻でA5判500p。資料編5巻、通史編2巻、別編8巻。 (構成、ダイジェスト版発行については、編さん方針中に記載あり)	全16巻、A5判600～1000p。 通史編4巻、史料編8巻、別編4巻(各巻の内容記載あり)	全5巻11冊 各巻の構成 A5判縦組み(自然編のみ横組み)、各冊800～1000p 各冊5000部発行 無償配布500部、有償4500部、価格は印刷代相当

項目	青森市	上越市	相模原市	横須賀市	寒川町	甲府市	松本市
編さん期間 刊行計画	平成8年度～21年度の14年間とする。 (刊行計画の記載はない。)	上越市発足30周年記念事業としての位置付け 資料収集・整理(7年度～13年度) 資料編刊行(10年度～14年度) 通史編刊行(13年度～16年度)	刊行計画 各巻(全10巻)、ダイジェスト版の準備期間及び刊行年度、市史研究、市史叢書等の刊行年度を記載  (編さん期間は記載がないが、刊行計画表から平成13～26年度の14年間と読み取れる)	編さん期間は平成11年度～25年度の15年間。 資料調査は平成11年度から計画に基づき順次実施。 資料収集・整理については別途定める。 刊行は平成15年度～25年度。資料編、別編、通史編の順に執筆、編集、刊行。(各巻刊行の年次計画あり)	編さん、発行は昭和60年度～74年度の15年間。 昭和60年度は準備期間。 61～63年度は資料収集、調査。社寺、旧家…等所蔵の資料を広範囲に調査、収集する。町外の資料も調査、収集する。資料所在目録を作成する。	編さん、刊行は昭和58年度～67年度の10年間。 (各巻ごとの編さん計画が別表にあり)	平成9年度(市制90周年)までに発行を完了(9年間)  (刊行計画の記載はない)
頒布方法	(記載なし)	(発行部数(各巻3000部)。うち、有償配布2000部、無償配布+保管1000部)	(頒布方法として「市民が購入しやすい価格設定」「販売促進のための広報活動」「市民が購入しやすい方法」)	頒布方法(有償・無償、部数)は市長が別に定める。	頒布方法(有償・無償、部数)は町長が別に定める。	(記載なし)	(各冊5000部発行、無償配布500部、有償4500部、価格は印刷代相当)
普及活動 付帯事業	市史研究等の発行 市史講座 市広報への記事掲載を行う。	(付属刊行物として「市史じょうえつ」の発行)	(付帯事業として「編さんだより」「市史研究」等を随時刊行、講演会等も実施)	(記載なし)	(「町史研究」を随時発行)	(記載なし)	(記載なし)
編さん組織	編さん委員会を置く。 編さん委員会の下に編集委員会を置き、その下に専門部会、執筆編集員、調査協力員、執筆協力員を置く。	市史編さん委員会 25人以内 市史専門委員会、その中に専門部会(7部会)、調査協力員の設置	市史編さん審議会 市史編さんにかかわる重要事項を付議する。 市史編集委員会 市史各巻、付帯刊行物の内容、編集方針を定める。 市史編さん室 市史編さん事業の事務局	市史編さん委員会 市史編さん事業に関する基本的事項を審議する。 市史編集委員 各専門分野を担当する部会間の総合調整を行い、市史を編集する。 市史専門委員 編さんに必要な資料収集、調査、研究を行い、執筆にあたる。	町史編さん審議会 町史編さんの基本方針等の審議、総合調整を行う。 町史編集委員会 町史編さんに必要な資料調査、収集、編集を行う。 町史編さん事務局 事務局として町史編さん室を設置。	編さん委員会の設置(学識経験者、市議会議員、市職員20人以上で組織) 編さん委員会議 重要事項の審議 専門委員 史料の調査、収集、翻訳など 部会 時代別、部門別に専門事項を調査研究 協力員 資料の調査収集について市民の協力を得る  市史の原稿は主として編さん委員(学識経験者)と専門委員が執筆。特別な部門は専門家に依頼する。	編纂委員会 総合的な審査、審議、調査等 編集委員会 5部門により構成。部門ごとに編纂委員である学識経験者を委員長として組織的指導、助言のため) 相談役 全体にわたる指導、助言 協力員 市民(広く市民の協力を得るため)
事務局	庶務は総務部総務課市史編さん室で処理する。	(記載なし)	(市史編さん室が編さん事業の事務局)	編さん事務局は、総務部総務課とする。	(事務局として町史編さん室を設置する。)	市長室・広報・市史編さん担当が所管	行政管理課に市史編さん室を設置。

【参考】各自治体史編さんの部会構成

項目	青森市	上越市	相模原市	横須賀市	寒川町	甲府市	松本市
部会構成	7部会 考古 古代 中世 近世 近現代 自然 民俗	7部会 原始・古代史 中世史 近世史 近代史 現代史 自然史 民俗	6部会 近現代 現代図録 自然 民俗 考古 文化遺産	7部会 (注1) 古代・中世 近世 近現代 文化遺産 考古 軍事 民俗	7部会 宗教 考古 古代・中世 近世 近現代 美術工芸 民俗	4部会 原始・古代・中世 近世 近・現代 民俗・美術工芸	5部会) 自然 原始・古代・中世 近世 近代・現代 民俗

(注1) 横須賀市は、編さん開始時に ~ の3部会を設置。その後各編の刊行計画に合わせ順次部会を設置した。

項目	八王子市史編さん基本構想の内容(案)
策定趣旨	八王子ゆめおりプランの基本理念である「人とひと、人と自然が共生し、だれもが生き生きするまち」を踏まえ、市史編さんの方向性を示し、市史編さん事業のよりどころとする
編さん目的	市制100周年記念事業として行い、市民の主体的な地域創造に寄与する。 八王子の自然や歴史・伝統文化を、市民自らの手で発掘・発見し、共有することにより、これらの未来への継承を図る。 八王子に関する有形、無形の資料を掘り起こし、整理・再編をすすめ、将来に向けた資料の保存、管理、活用を図る。
編さんの方針	既刊の『八王子市史』を参考としながらも、その後の学問分野における最新の成果を盛り込み、生活する市民の視点から、改めて編さんする。 既刊の『八王子市議会史』『八王子千人同心史』『八王子の戦災と空襲の記録』が対象とした分野については、その成果を生かしながら、必要に応じて取り扱うこととする。 広く市民に親しまれ、まちづくりや生涯学習、学校教育等で活用される市史を編さんする。 専門家の執筆による、質の高い学問レベルに耐えうる内容を保ちながら、平易な文章で読みやすい市史とする。 政治、経済、行政史に偏ることなく、地域に生きた人々の視点での編さんにつとめる。 八王子の地域的、歴史的、文化的な特性に配慮しながら編さんする。 資料は国内外から広く収集し、有形のものだけでなく、伝承など無形のものにも配慮する。 編さんの過程で調査、収集した資料は、公文書館などの施設の整備を図り、適正に保存、管理し、広く市民に公開して活用を図る。
市民協働	市史編さんにあたっては、大学や地域、市民と協働し、地域の歴史を掘り起こすことにつとめる。 市民によるボランティアの活用を図る等、市民参加、参画の機会の拡大につとめる。 地域の研究団体や個人、学校などと連携し、編さん事業の普及につとめるとともに、次世代に向けた人材育成を図る。
市史の内容 時代区分 規模 構成 等	本編 6巻8冊(自然史、原始・古代、中世、近世「上・下」、近現代「上・下」、民俗)とする。 各巻の主な内容は、別表1のとおりとする。 資料編 6冊(原始・古代、中世、近世2冊、近現代2冊)とする。 発行部数等については、別途定める。
編さん期間 刊行計画	市史編さんの期間は、市制100周年を迎える平成28年度までとする。 本編及び資料編の刊行計画は、別表2のとおりとする。 刊行計画については、5年後を目途に見直しを図ることとする。
頒布方法	頒布にあたっては、市民が購入しやすい価格設定、方法となるようつとめる。
普及活動 付帯事業	付帯事業として、「市史研究」、「市史編さん室だより」、「資料目録」、「調査報告書」等を刊行する。
編さん組織	市史編さん審議会 市長の諮問に応じ、市史編さんの基本的な事項について調査審議し、答申する。 市史編集委員会 市史編さん審議会の代表と部会を代表する者で構成し、市史の編集に関する重要で専門的な事項について協議する。 専門部会 分野別、時代別に設置し、本編及び資料編に関する調査並びに執筆を行う。 顧問 八王子に関して深い学識を有する者から選任し、市史編さん事業に対する指導、助言を行う。
事務局	市史編さんの事務局は、総合政策部市史編さん室とする。

別表1 本編の構成と主な内容

構成	主な内容
第1巻「自然史」	環境、地質、動植物、気象、古生物、水、四季、災害、高尾山など
第2巻「原始・古代」	先土器時代から平安時代まで
第3巻「中世」	鎌倉時代から戦国時代まで
第4巻「近世」(上・下)	江戸時代
第5巻「近現代」(上・下)	明治維新から現代まで
第6巻「民俗」	まつり、人の一生、民俗信仰、生業、近隣組織、民俗芸能など

別表2 刊行計画

内容		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
本編	第1巻「自然史」	資料収集・調査・分析				→				
	第2巻「原始・古代」		〃			→				
	第3巻「中世」		〃				→			
	第4巻「近世」(上)		〃				→			
	〃 「近世」(下)		〃					→		
	第5巻「近現代」(上)		〃					→		
	〃 「近現代」(下)		〃						→	
	第6巻「民俗」		〃						→	
資料編	1「原始・古代」		〃	→						
	2「中世」		〃			→				
	3「近世1」		〃		→					
	4「近世2」		〃				→			
	5「近現代1」		〃	→						
	6「近現代2」		〃			→				

参考 市史編さんの組織（案）

市史編さん審議会（条例により設置）

役割 市長の諮問に応じ、市史編さんに関する基本的事項について調査審議し、答申する。

構成 学識経験者、文化財保護審議会委員、市民団体代表、商工業関連団体代表、公募市民

人数 10名以内

市史編集委員会

役割 市史の編集に関する重要で専門的な事項について協議する

構成 市史編さん審議会の代表、各専門部会の代表

人数 8～10名

専門部会

役割 本編及び資料編に関する調査並びに執筆を行う。

構成 以下の6部会を設置

自然史部会

原始・古代部会

中世部会

近世部会

近現代部会

民俗部会

人数 各部会とも5名程度の専門部会員で構成し、うち1名を部会長（市史編集委員）とする。このほか、必要に応じ、専門調査員、調査員を置く。

顧問

役割 市史編さん事業に対する指導、助言を行う。

構成 八王子に関して深い学識を有する者（地域史研究者等）

人数 若干名